

意見検討結果一覧表

(令和2年度第2回岩手県発達障がい者支援体制整備検討委員会・広域特別支援連携協議会 ※書面開催)

番号	意見		類似意見 件数(件)	検討結果(県の考え方)
	資料No.	ページ		
1	No. 1	1	3件	引き続き、各種会議等で繰り返し周知を図るとともに、関係機関内でも活用に関する理解を図る機会を設定いただくようお願いしていくこととします。
2	No. 1	1	2件	「引継ぎシート」の作成・活用のねらいが達成できるよう、好事例を紹介するなど普及に努めることとします。
3	No. 1	2		令和3年度から、内陸地区2会場、沿岸地区2会場での開催とし、学校と地域とのつながりを生かしながら、卒業後を見据えた支援のさらなる充実につなげていくこととします。
4	No. 1	3		特別支援学校が地域の特別支援教育のセンター的役割を果たすことができるよう取組を継続していきます。
5	No. 1	3		特別支援学級・通級による指導担当教員を対象とした3年間にわたる継続的な研修に加え、総合教育センターにおいて、教員のニーズや時代の変化等に対応した専門的な研修を引き続き実施していきます。
6	No. 1	3		総合教育センターの各種研修講座において、時代の変化等に対応した内容を取り入れるなどして、教員の要請・資質向上に向けて取り組んでいきます。
7	No. 1	4		特別支援教育中核コーディネーターの養成、専門性向上につなげることができるよう、地域の特別支援学校により開催している特別支援教育コーディネーター連絡会・研修会への参加、特別支援教育中核コーディネーター対象研修会の開催などに引き続き取り組むとともに、内容についても常に見直しを図っていくこととします。

8	No. 1	5	高等学校段階における特別支援学校と近隣高等学校との交流及び共同学習の実施については、非常に有意義であり取組に期待するところであることから、実践の具体を令和3年度の会議で示してほしい。	令和3年度の会議で県内の好事例を共有することとします。なお、令和2年度の取組として、岩手県特別支援教育研究会の機関誌に県内の交流及び共同学習の好事例をまとめ、県内関係機関に送付しています。
9	No. 1	6	外部専門家、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士等を日常的に活用・連携できるシステムの構築が必要。	意見については、特別支援学校等による各種技能士との連携・活用のさらなる充実に向けた一つの視点として参考にさせていただきます。
10	No. 2-①	1	「適正規模」について確認したい。	当該障がい種、学部段階及び児童生徒の教育的ニーズ等を勘案し、教育活動の充実につながる集団・施設と考えています。
11	No. 2-①	3	特別支援学級には「自閉症・情緒障がい」が存在することから、知的障がいのない発達障がいの子の受け入れ先の検討と教育機会の確保を願う。	特別支援学校は、学校教育法第72条に規定する視覚障害者、知的障害者等に対する教育を行うこととされています。一方で、小中学校段階は通常の学級と通級による指導、特別支援学級があり、高等学校段階は全日制・定時制・通信制等の課程、多様な学科、通常の学級と通級による指導があるなど、多様な学びの場があることから、それぞれの学びの場において丁寧な指導・支援ができるよう体制や教員研修の充実、関係機関との連携に努めていくこととします。
12	No. 2-①	7	盛岡峰南高等支援学校の学科見直しに賛成。	意見の盛岡峰南高等支援学校の学科見直しについては、高等部・職業教育の充実に向けて検討する一つの視点にすることとします。
13	No. 2-①	7	他の特別支援学校の作業学習についても高等部卒業後の一般就労を意識して手を加えることが必要。	意見の特別支援学校の教育活動の見直しについては、高等部・職業教育の充実に向けて検討する一つの視点にすることとします。
14	No. 2-①	13	二戸地区の特別支援学校設置について、地域の実情や要望を踏まえて早急な設置を期待する。	二戸地区の特別支援学校設置については、様々な状況を勘案しながら、可能な限り早期の開校を目指して取り組むこととします。
15	No. 2-①	16	宮古恵風支援学校の環境整備を期待する。	抜本的な環境整備について関係機関等との連携により優先的に検討していくこととします。
16	No. 2	その他	知的障がいはないが、障がいの特性としては重度とみなして対応・支援しなければならない gifted child の居場所・学びの場の枠組みの設置・整備を望む。	小中学校段階は通常の学級と通級による指導、特別支援学級があり、高等学校段階は全日制・定時制・通信制等の課程、多様な学科、通常の学級と通級による指導があるなど、多様な学びの場があることから、それぞれの学びの場において丁寧な指導・支援ができるよう体制や教員研修の充実、関係機関との連携に努めていくこととします。
17	No. 2	その他	担当者が変わっても、計画されたことが着実に実施されることが大切。	本計画を着実に実行できるよう、担当課及び関係各課において切れ目ない情報共有・引継ぎに努めていきます。
18	No. 3	1	青少年育成会議の研修会について、オンライン参加も可能になったことから、より広く情報発信してほしい。	岩手県子ども・若者自立支援ネットワーク会議での周知や、ホームページに掲載するなど情報発信に努めていきます。

19	No. 3	2	ペアレントトレーニングは、家族支援として有効であることから、各市町村・福祉圏域での活動の発展を望む。	令和3年度も引き続きペアレントトレーニング支援事業を継続してまいりますので、委託先事業者と連携し、活動内容の充実に努めてまいります。
20	No. 3	2	医療機関の初診までの待機が長期化していることについて、この度のアンケート調査がこれに資すること期待する。	初診までの待機時間の縮小に向け、今回のアンケート調査結果も活用しながら検討いたします。
21	No. 3	3	「家族支援体制の構築支援」について、医師の初診まで半年から1年待ちなどの実情が話される中、前ページの直接的支援が受けられる機関が少ないことへの対策も含めて、極めて大切であると感じる。	「家族支援体制の構築」は保護者に対する相談支援など重要な役割を担うものですので、引き続き、ペアレントメンター支援やペアレントトレーニング実践研修等の事業を継続してまいります。
22	No. 3	3	国の指針により、令和3年度からの都道府県及び市町村の障害福祉計画に、ペアレントトレーニング等の受講者数について見込み量を定めることになったのを受けて、今後もペアレントトレーニング実践研修を継続して実施し、さらに充実させていく必要がある。	第6期障がい福祉計画において、新たにペアレントトレーニングの実践者数やペアレントメンターの見込量を定めたところであり、市町村等と連携しながら、目標達成に向けて取り組むなど、引き続き家族支援の支援体制の充実に努めてまいります。
23	No. 3	5	かかりつけ医等発達障がい対応力向上研修は、本年度1回となってしまいが、来年度の開催について、資料No.4のアンケート結果を参考としてより有効な開催方法も協議したいので、引き続き協力願う。	当該研修について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催が流動的となってしまったところですが、令和3年度は令和2年度の開催方法等を参考とし、より有用な研修となるよう進めてまいります。
24	No. 3	5	ICT支援員を含むソフト面の充実と、支援員のネットワークについて、市町村への周知を願う。	ICTに係るソフト面の充実に関しては、市町村等への周知について検討してまいります。
25	No. 4-②	1	初診待機期間は、専門医の少なさからなかなか改善されない。県外医師に嘱託医としてお願いするなどの選択肢もあると考えるが、状況と今後の対応について教えてほしい。	アンケート調査結果により、現状把握の上、検討を進めてまいります。併せて、かかりつけ医等発達障がい対応力向上研修の継続により、一定水準の発達障がいに対応できる医療従事者の増加に向け取り組んでまいります。
26	No. 4-②	1	本調査の対象とされている方は団体に参加されている方々だが、現状はよりもっと多くの方々が受診等で困っていることから、アンケート結果をどのように捉えるかが難しいように思える。	今回の調査では、これまでの発達障がい者支援体制整備検討委員会での御意見をふまえ、回答者の母集団を明確にするため、対象者を保護者であれば家族団体への参加者、医療機関は医師会会員としました。調査範囲を明確にすることで、ある程度の県内の傾向について導き出せると考えております。
27	No. 4-②	1	アンケート対象者には、「18歳未満の発達障がい児等の保護者」とあるが、アンケート用紙には「本人とその保護者」とあるので、どちらを想定しているのか分からない。	保護者を対象にしているため、御指摘をふまえ、記載を「保護者」に統一します。

28	No. 4-②	1	（当事者[保護者]向け）という表現がわかりにくいので、（保護者向け）だけでよいと考える。	御意見を反映し、「発達障がい児等支援アンケート調査（保護者向け）」に変更します。
29	No. 4-②	1	「18歳未満の発達障がい児等とその保護者の方を対象に」は、「18歳未満の発達障がい児等の保護者の方を対象に」という記載でよいと考える。	御意見を反映し、「18歳未満の発達障がい児等の保護者の方を対象に」に変更します。
30	No. 4-②	1	問1～3について、「本人の基本情報」は、「お子さんの基本情報」がよいと考える。	問1で「18歳未満の、発達障がいと診断されたお子さま又は発達障がいの疑いがあると思われるお子さま（以下「本人」といいます。）」としています。
31	No. 4-②	1	問4について、「自閉症、アスペルガー症候群」ではなく「自閉症スペクトラム」とする。	御意見を反映し、選択肢の「自閉症」と「アスペルガー症候群」を「自閉症スペクトラム」とまとめることとします。
32	No. 4-②	1	問5について、「 <input type="checkbox"/> 登校しぶり、 <input type="checkbox"/> 不登校、 <input type="checkbox"/> 昼夜逆転、 <input type="checkbox"/> 睡眠障害」を追加してほしい。	御意見を反映し、上から順に「ひきこもり」「自傷他害」「スマホ・ゲーム依存」「登校しぶり」「不登校」「昼夜逆転」「睡眠障害」「不安障害」「抑うつ」とします。
33	No. 4-②	1	問5について、「 <input type="checkbox"/> 不安障害、 <input type="checkbox"/> 抑うつ」は下の方でよい。「 <input type="checkbox"/> ゲーム依存」は「 <input type="checkbox"/> スマホ・ゲーム依存」に変更した方がよい（女子はスマホ依存が多い）。	御意見を反映し、上から順に「ひきこもり」「自傷他害」「スマホ・ゲーム依存」「登校しぶり」「不登校」「昼夜逆転」「睡眠障害」「不安障害」「抑うつ」とします。
34	No. 4-②	1	問1について、診断もしくは疑われたときは18歳未満でも、現在は18歳以上のときは、このアンケートから漏れてしまうのではないか。	発達障がいにおいては早期発見・早期支援が重要であるとの観点から、本調査では18歳未満の発達障がい児等の現状について把握・整理したいと考えております。 このため、設問についても、初診に関することやライフステージごとの支援に関する事等、保護者に回答いただくことを前提としております。
35	No. 4-②	3	問13について、「 <input type="checkbox"/> オンラインゲーム依存状態である」を追加してほしい。	この設問では余暇活動の状況について定量的な調査を行いたいと考えております。その結果、ゲーム等で大きな数字があれば依存について心配されるため、集計結果を解析する際に、どの程度から依存であるかといった分析について、ご助言いただきたいと思います。
36	No. 4-②	4	問19について、「市町村（乳幼児健診）」は、「市町村（乳幼児健診・家庭訪問等）」がよいと考える。	御意見を反映し、「市町村（乳幼児健診・家庭訪問等）」に変更します。
37	No. 4-②	6	問25の次に医療機関を受診して有用だったか否かの問いを追加してはどうか。「 <input type="checkbox"/> とてもよかった <input type="checkbox"/> よかった <input type="checkbox"/> あまりよくなかった <input type="checkbox"/> 悪かった」	御意見を反映し、「医療機関への受診が有用だったかどうか教えてください。」を追加し、選択肢は「とても有用だった」「有用だった」「あまり有用ではなかった」「有用ではなかった」「その他（自由記載）」とします。
38	No. 4-②	6	「岩手医科大学附属病院」への語句修正を願う。	誤植につきまして、お詫びして訂正します。

39	No. 4-②	6	「療育教室」と関わると分からない保護者もいることから、盛岡市のわらしっこ教室など、括弧内に例を入れるなどして分かりやすくしてほしい。	御意見を反映し、「療育教室」（例：わらしっこ教室（盛岡市）など）に変更します。
40	No. 4-③	1	問2に、「受診等には対応していないが、関わり方など対応を工夫している。（問12以降を回答するように誘導）」などのように、発達障がい以外の治療を担当している医師の対応についての記述を追加してほしい。	この設問では発達障がいの診療の状況について把握することを目的としているため、対応の工夫の有無については、今回は設問には加えないこととしますが、対応無の場合であっても、問12「かかりつけ医等発達障がい対応力向上研修」以下の質問についても回答していただくこととします。
41	No. 4-③	1	問2について、「相談対応、診療、診断等」は、「受診（相談対応、診療、診断等）」に変更した方がよい。	御意見を反映し、「受診（相談対応、診療、診断等）」に変更します。
42	No. 4-③	1	問2について、上から二つを選んだ場合はアンケート終了とせずに、「→問12」とした方がよい。同様に、問13から問15へ誘導した方がよい。	御意見を反映し、問12以下の「かかりつけ医等対応力向上研修」の設問へ誘導し、問15「受診サポート手帳について」及び問16「発達障がい児等支援の充実・強化」についても答えていただくこととします。
43	No. 4	その他	大変興味深い内容であり、ぜひ成功させてほしい。	
44	No. 4	その他	回答者（母、父、祖父母等）の記載が必要ではないか。	御意見を反映し、以下を設問に加えます。 【問1 回答される保護者の方について】本人との続柄を入力してください。（選択肢は問12と同様）
45	No. 4	その他	現在発達障がいという名称は神経発達症に変わりつつあるため、発達障がい（神経発達症）児等支援に係るアンケート調査についてとした方が良くもしれない。	御意見を反映し、本調査名を「発達障がい（神経発達症）児等支援に係るアンケート調査」に変更します。 なお、冒頭のアンケートについての説明文に「本調査では便宜上『発達障がい』と記載しております。」と加え、以下の設問上における発達障がいの表記についてはそのままとします。
46	その他		本会議に商工会や企業等の方、社会保障制度担当の参加、就労に関する資料作成・会議運営を希望する。	商工会や企業の方の参加については、今後の会議の協議課題とさせていただきますとともに、自立支援協議会の就労支援部会との間で就労支援に係る情報共有を検討いたします。